

# 森林認証(FSC)取得に関する研究

## Study on forest certification (FSC) acquisition

大石 駆琉(Kakeru OHISHI)、鈴木 雄也(Yuya SUZUKI)、伊藤 司(Tsukasa ITO)、柴田 康佑(Kosuke SHIBATA)

### ▶ 1 Abstract

We examined the acquisition of forest certification (FSC / FM certification) at our training forest, and in terms of cost, group certification can significantly reduce costs and provide big benefits for forest management in the future. In a preliminary survey of environmental monitoring in our training forest, we discovered “*Asarum nipponicum*”, “*Cymbidium goeringii*”, and “*Daphne kiusiana*”, whose populations have decreased in recent years. In order to obtain the certification, it is necessary to produce timber with attention to these individual plants. Also, the need for continuous investigation of their individual status has been suggested. The SDGs stipulate that “the importance of each person acting within their roles so that everyone can live happier than they do now”. We expect that our efforts for acquiring the forest certification will lead to activities involving local industries and residents.

### ▶ 2 はじめに(Introduction)

森林認証(FSC)はFM(Forest Management:森林管理)認証と、認証林からの適切な流通及び加工を認証するCoC(Chain of Custody:加工流過程の管理)認証からなる(Fig.1)。天竜地区では認証による持続可能な木材生産が、展開されており、本校演習林での森林認証(FSC・FM認証)の取得とその課題について検討した。本研究では「認証取得のコスト(導入利点及び欠点など)課題」及び「環境モニタリング等の技術的課題」について検討した。

森林認証のしくみ Fig.1



本校演習林について



### ▶ 3 方法・結果(Experimental Methods・Results)

#### 取得によるコストの試算及びその効果

静岡県西部農林事務所と共同研究し、森林簿の面積を元にグループ認証の負担金を算出した。取得コストは単独認証に比べて1/1000であることが分かった(Table.1)。

単独取得	グループ認証
約2,000,000円	約2,000円

Table.1

グループ認証負担金内訳  
約1,500円(均等割)+約500円(面積割)  
=約2,000円(負担金)

グループでの認証取得は、  
加盟団体同士で認証コストを分割することができる

#### 環境モニタリング調査の実施



森林認証の手順書に準じた100 m<sup>2</sup>の調査区を設け、下層植生調査を実施した(Fig.3)。その結果、絶滅危惧種ではないものの全国で近年固体数が減少しているカンアオイ(Fig.4)、シュンラン(Fig.5)及びコショウノキを確認した(株式会社エスペックミックとの共同研究)。

### ▶ 4 考察(Discussions)

#### 取得によるコストの試算は十分だろうか？

本研究では、持続可能な森林経営の観点から、コスト試算の必要性が示唆された。近年全国の農業関連高校ではGAP(Good Agricultural Practice:農業生産工程管理)などの認証取得が盛んだが、取得及び更新コストの議論が尽くされているとは言い難い。本校では、既に森林認証している青森県立五所川原農林高等学校とも連携しながら、認証取得と持続可能な森林経営について引き続き検討していきたい。



青森県立五所川原農林高等学校でのFSC勉強会に参加し、意見及び情報を交換した。

#### モニタリング調査の効果は？

環境モニタリングは技術的に実施可能であることがわかった。しかし、この結果をどのように森林生産につなげていくのかが、認証時には問われると考えられた。

#### 森林認証10の基準とSDGsの17の目標

- 森林認証では10の基準が定められている。
- ①法令順守
  - ②労働者の権利
  - ③先住民族の権利
  - ④地域社会の関係
  - ⑤森林からの便益
  - ⑥環境
  - ⑦管理計画
  - ⑧モニタリング
  - ⑨高い保護価値
  - ⑩管理活動の実施
- 17の目標



### ▶ 5 結論(Conclusion)

以上の結果より、本校演習林でのFSC・FM認証を導入はグループ認証が好ましいと考えられた。認証後に必要となるモニタリング調査は本校でも実施可能であるが、希少種に配慮した木材生産が求められることが考えられた。

### ▶ 6 謝辞(Acknowledgements)

本研究の遂行にあたり、静岡大学富田涼都准教授及び株式会社エスペックミック吉野博士をはじめ各方面の皆さまには、細部にわたるご指導をいただきました。なお、本研究は令和元年度JAアグリサポートの助成を受けたものです。みなさまに心から深く感謝します。